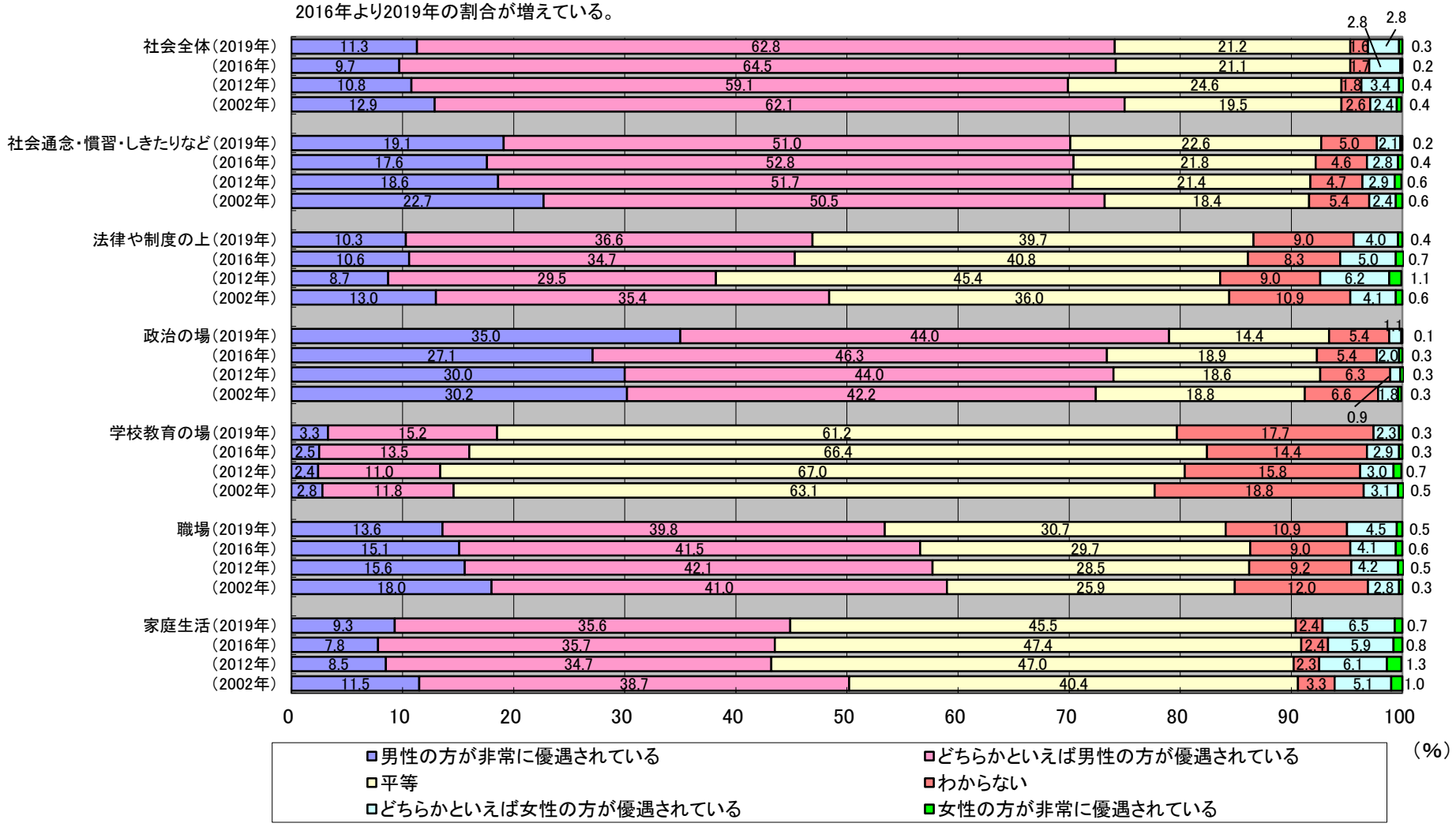
# 各分野における男女の地位の平等感（全国・男女計）

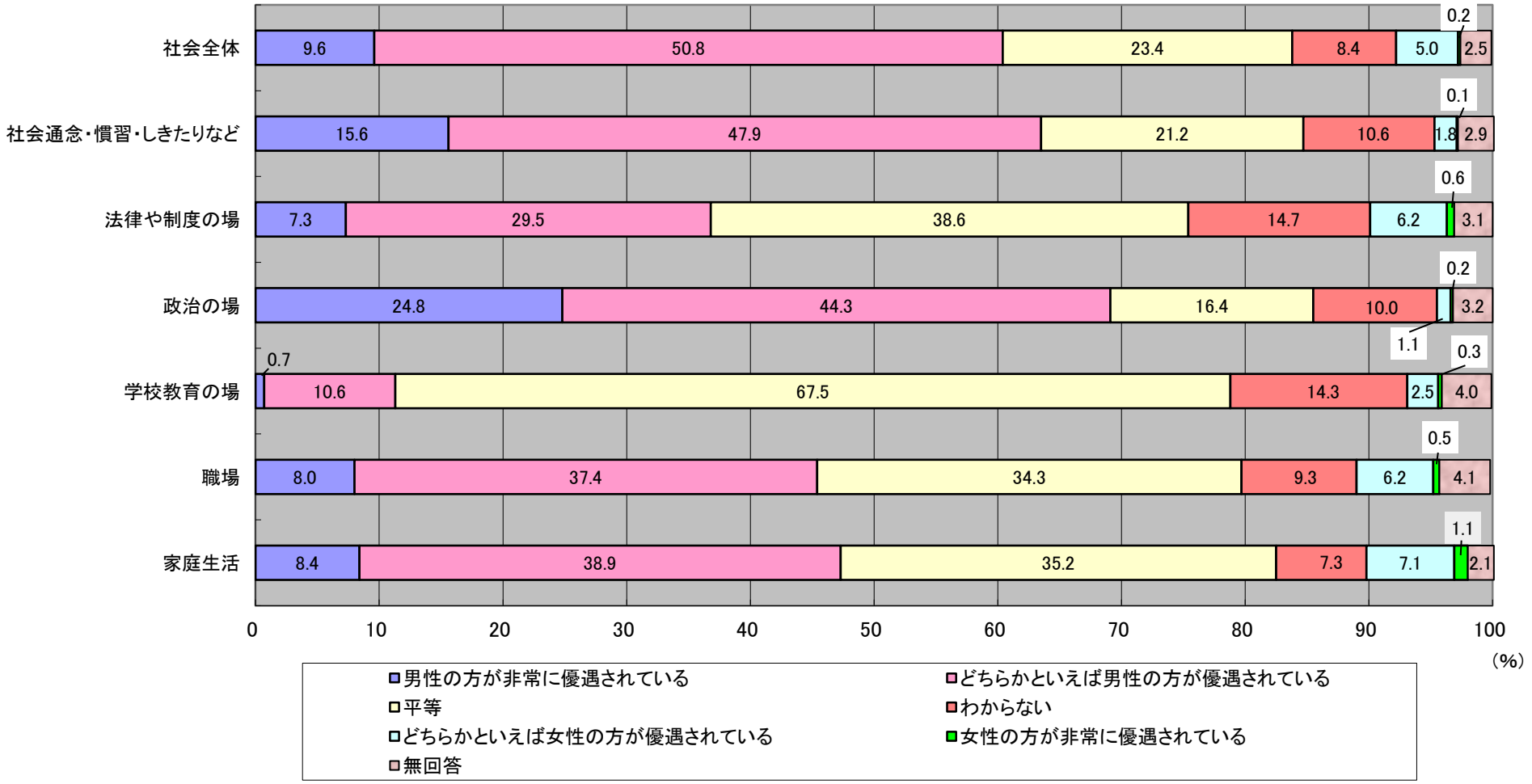
「男性の方が優遇されている」と考える人の割合は、減少しているものもあるが、「法律や制度の上」「政治の場」と「家庭生活」においては、2016年より2019年の割合が増えている。




資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」による。2002年は7月、2012年は10月、2016年及び2019年は9月調査。

# 各分野における男女の地位の平等意識（令和元年：高知県・男女計）

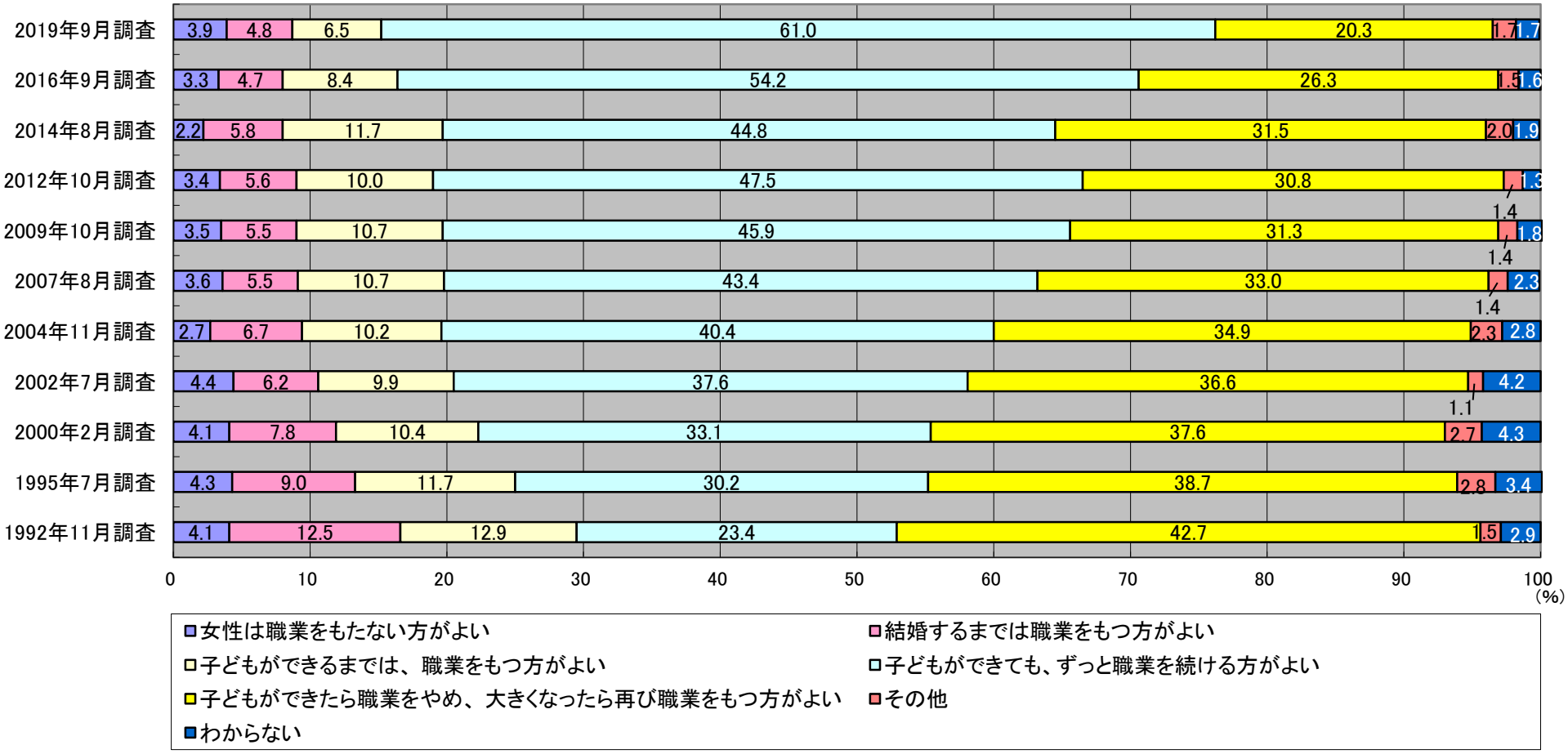
全体的には「男性の方が優遇されている」と考える人の割合は、全国の結果と同傾向にあるが、「家庭生活」は全国より、やや高い割合を示している。




資料：高知県「男女共同参画社会に関する県民意識調査報告書」による。2019年10～11月調査。

# 女性が職業を持つことに対する意識（全国・男女計）

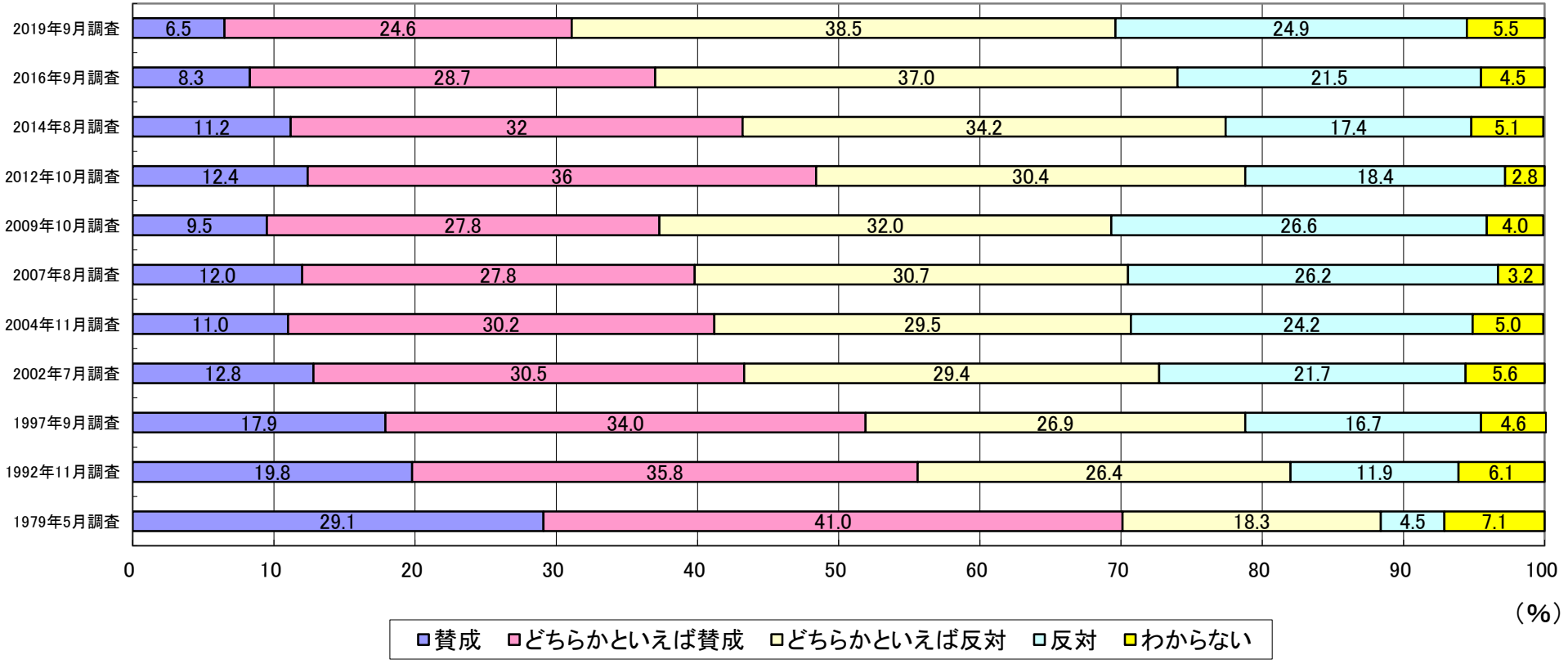
「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人の割合が2016年の調査で初めて50%を超え、2019年には60%を超えた。




資料：内閣府「男女平等に関する世論調査（1992）」「男女共同参画社会に関する世論調査(1995～2012、2016、2019)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

# 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識（全国：女性）

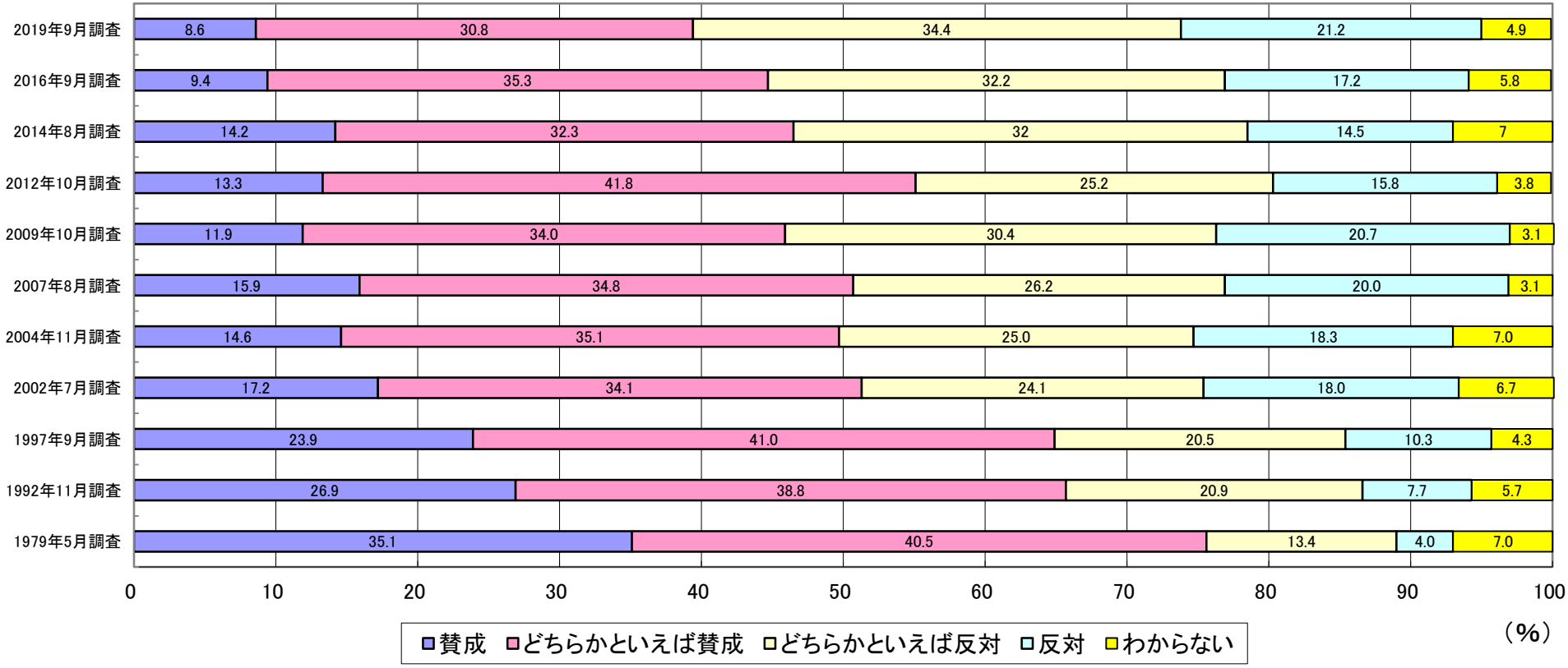
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、女性のうち、「賛成」・「どちらかといえば賛成」と考える人の割合は、2019年には最小となった。




資料：内閣府「婦人（I部）に関する世論調査（1979）」「男女平等に関する世論調査（1992）」「男女共同参画社会に関する世論調査(1997～2012、2016、2019)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

# 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識（全国：男性）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、男性のうち、「賛成」・「どちらかといえば賛成」と考える人の割合は減少傾向にあったが、2012年の調査では賛成と反対が逆転した。その後、再び反転し2019年には39.4%と過去最小となった。

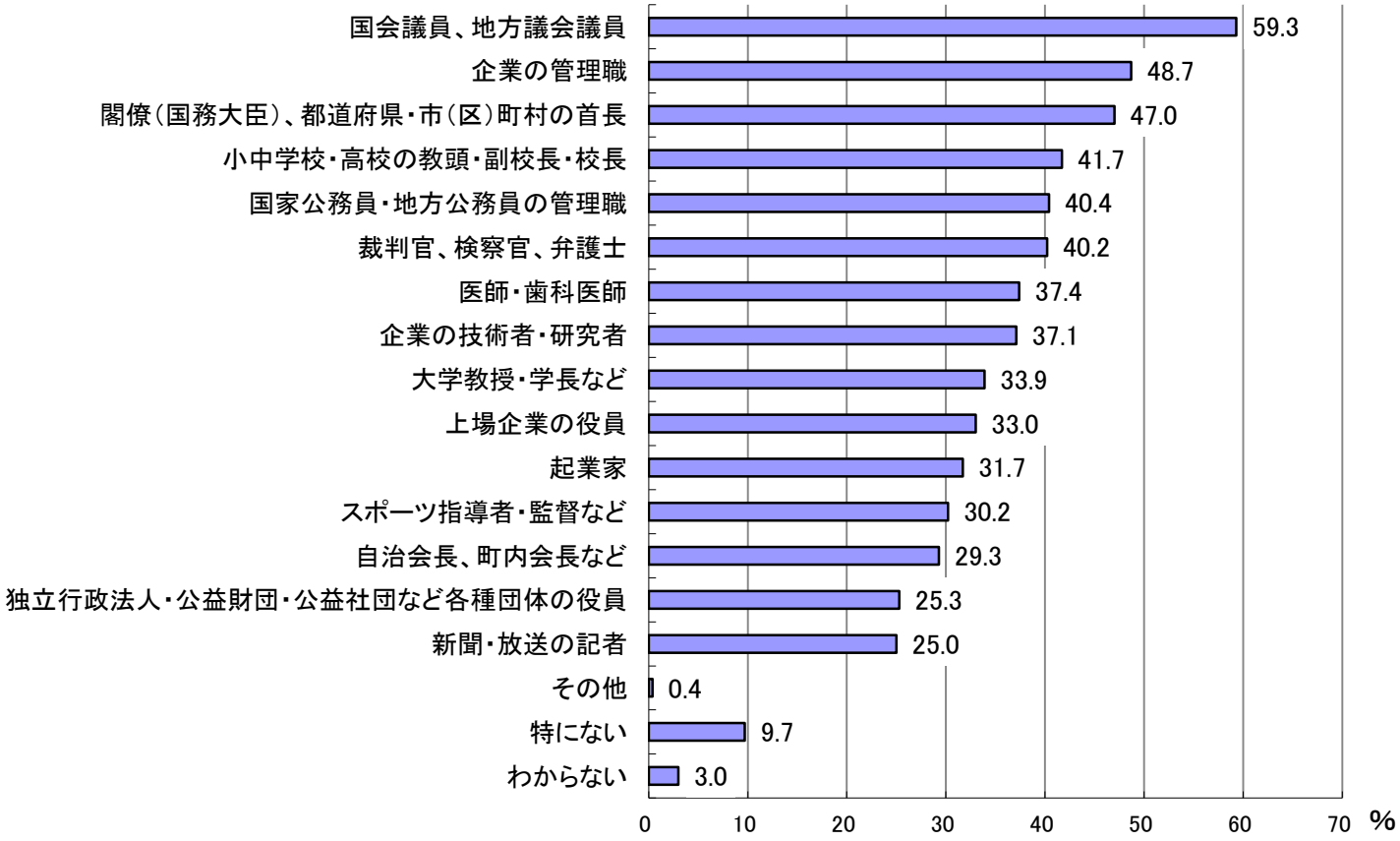



資料：内閣府「婦人（I部）に関する世論調査（1979）」「男女平等に関する世論調査（1992）」「男女共同参画社会に関する世論調査(1997～2012、2016.、2019)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

# 女性が増える方がよいと思う職業や役職（令和元年・全国）

「国会議員、地方議会議員」が59.3%で最も多く、次いで「企業の管理職」、「閣僚（国務大臣）、都道府県・市（区）町村の首長」が続いている。

（複数回答）

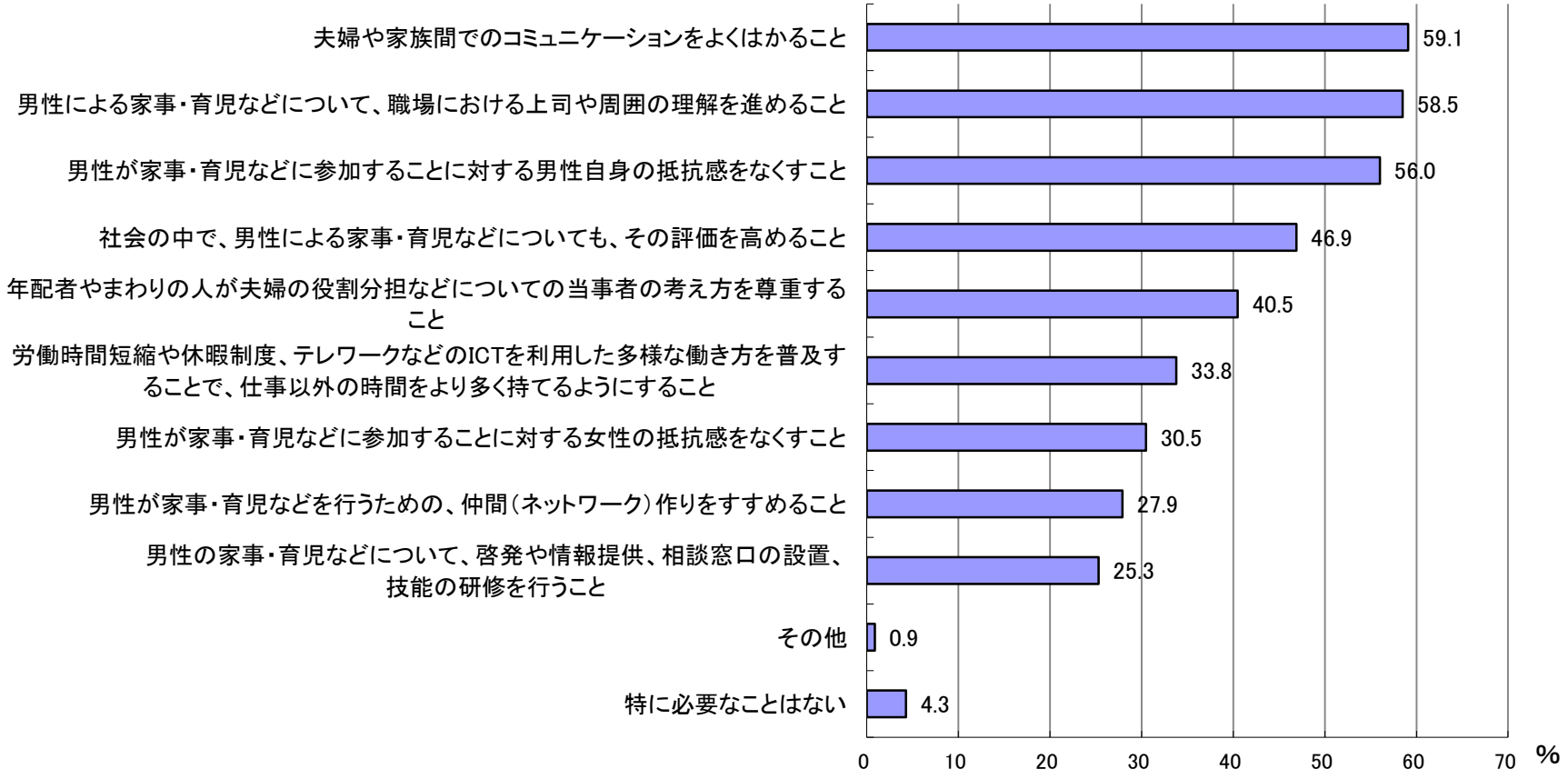



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2019)」による。

（回答者数：2,645人、回答数合計／回答者数：573.4%）

# 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと（令和元年：全国）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」との回答が最も高くなるとともに、「職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性の抵抗感をなくすこと」も50％以上となっている（複数回答）。

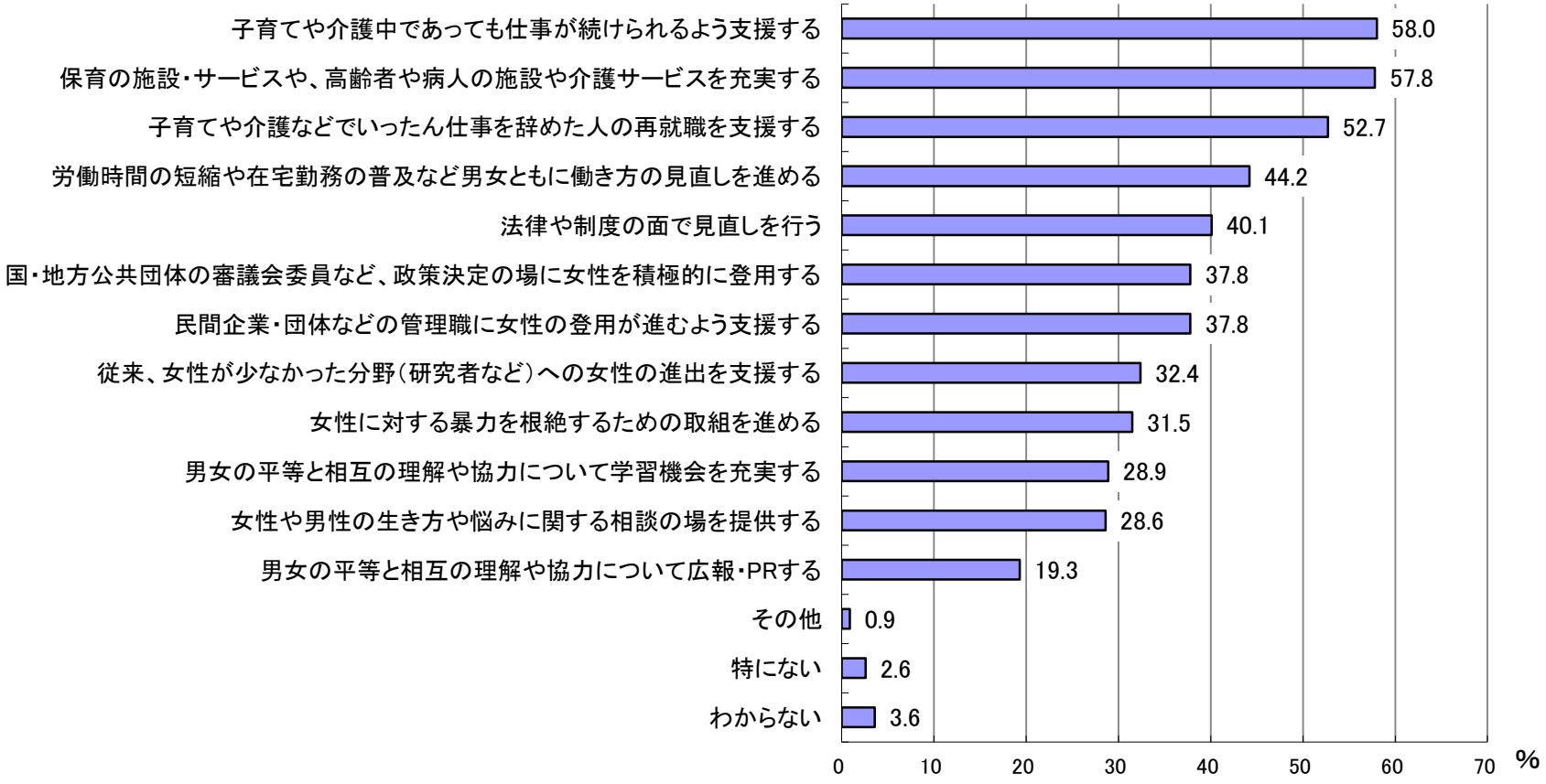



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2019)」による。

（回答者数：2,645人、回答数合計／回答者数：383.7%）

# 男女共同参画社会に関する行政への要望（令和元年：全国）

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最多で58%、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」との回答が50%を超え多くなっている（複数回答）。




（回答者数：3,059人、回答数合計／回答者数：196.1%）

資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2019)」による。